

CULTURE

幼儿早教

⑥自然と調和した暮らしの住まい

総合地球環境学研究所研究員 三村 豊



ヤカルタ都市圏は、人口1000万人以上が暮らし、交通渋滞や大気汚染など都市問題を抱えています。そこで、人々の移動の全容が明らかになれば、原因の発見につながるだろうと考えるようになりました。

入手できた総合情報は、約30万人分の移動手段や移動する目的、1分ごとの位置情報をでした。情報を分析すると、日本と比べるとバスやバイクなどを利用する若年層が多く、これが若年層の移動手段が改善されば排ガスの削減なら環境負荷の軽減につながるだろつと考察しました。

「丸竹夷」をきつかけに、高知県の過疎高齢化が進む集落の「記憶」を受け継ぎ、みんなで歌って踊れる唄を作りました。その唄は集落の屋号を並べて歌詞にしたもので、「屋号（まちごう）」と名づけました。屋号（まちごう）とは、同姓の多い集落で家々を見分けるため職業や場所の特性などで呼び合ふ通称のことです。

一貫、環境問題と離れていたように見えるこの研究を行うようになつた理由は、「環境負荷に関するアーティ分析だけでは問題を解決できず、人間の感性やより深い部分を探る必要がある」と思ったからでした。

本来の私の研究は、インドネシアのジャカルタ都市圏で環境に配慮したより良い住まい方の探求です。ジ

が、京都の通り名の唄「丸竹夷」を教えてくれました。「まる」が丸竹夷による愛称性と通り名を覚える実用性を兼ねた素晴らしい発想だと思います。加えて、京都の通りには歴史や文化の痕跡が刻まれています。「丸竹夷」によって、それが人々の誇りとなつて、これからも京都の街を支えます。

今年に完成した集落の唄「屋号うた」を踊る人々。普段は集落に住んでいない子どもたちも、親の帰省にともなってやってきた。唄を通して集落の暮らしが引き継がれていく(2019年8月12日)

A wide-angle photograph of a busy street in Jakarta, Indonesia. The road is filled with a mix of vehicles, including several white sedans, a silver SUV, and numerous motorbikes. In the background, there's a large building with multiple levels and a green roof. The sky is overcast.

でも、このことを現地の人にお話をされると、「親は家から離れていても、子どもに教育水準の高い学校で学ばせたい」という心が伝わってきます。だから若年層がバスやバイクを利用する」という答えが返ってきました。私は環境負荷を数値で表すことにだけ考えて、大都市で住まう親の気持ちまで考慮できていなかつたのです。いくら環境問題を叫んでも、

の記憶残す
みむら・ゆたか 千葉県野田市出身。東京大工業系研
究科後期課程(工学)単位取得退学。専門は建築史
(建築史、まちづくり)。京都府立農大で非常勤講
師。都市と農村で持続可能な住まいの方の研究を行つ
『ミナミ』や『タノウエ』とかがあ
る」。それば地図には記されてい
ない集落の屋号でした。「集落の人
口が減り、方言と同じで屋号も消え
去ろうとしている」。続けて、男性
はそう教えてくれました。私はそれ
を録音し、残して行く取り組みを始
めました。「丸竹裏」の唄を集落の
方々に誇明すると関心を持たれ、屋
号の記録どみんなで歌って踊れる集
落の唄をつくることが共通の目標に
なつていきました。

集落の屋号は住民一人一人の記憶
が頼りとなります。そこで、地図
が頼りとなります。そこで、地図

屋号並べ踊れる唄に、集落の記憶残す

これに利かたが環境問題や自然環境と向き合う態度にも通じます。人々の暮らしの営みは自然の営みの一部にあります。科学的なデータだけでなく「人間らしさ」の根底にある人々の営みを大事にして、自然と調和した暮らしの住まい方を上手に継承する方法を探りたいと思います。

よこすかの方々や屋久島を前にして悲しみや嘆いの念にとらわれていました。でも、唄という芸術作品がこうした「後ろめたさ」を拭い去り豊かな感情を与えてくれました。

その後、高知大の学生が中心になつて住民と一緒に踊りやすいよう作り直し、今年の集落の盆踊りで披露されました。ある女性は「20戸ほど知らん」と笑みをこぼす。「これを残してやうじうね」と言つてくれました。怒田での取り組みは、人と人、人と自然の豈みを改めて見つめ直し、どう未来へどうなけるかを問い合わせになりました。私は当初、消え

家屋は39戸）を收集でき、即興で唄を作りました。テンボを吟味し、「屋号うつたの盆踊りを完成させました。（歌おや睡るや屋号うつた。タノウエ、アギヤマ、アノチ。あーセいやさ、よいやさ。）

踊りは先祖が開墾して集落を築いた歴史を通じて、ツルハシで土を掘る動きなど不思議な舞を表しました。そ

POや高知大の学生、作曲家、渕田家とともに、住民参加のワークショップを開きました。かつて小学校の先生が暮らしていた家の脛骨が出るど、思い出を語り合ひ人々の姿がありました。またヌルツという脣号の意味を質問すると、「近くに水神さまがあるでしょ。私は『温む水』といふ意味だと考へている」という答え。自然が人々の暮らしを豊かにしていることに気づかされました。最終的に78戸分の脣号(うち現存する

たか 千葉県昭和市出身。東京大工学系研究課程(工学)単位取得後、専門は建築学(アーキテクチャ)。京都産業大・近畿大で非常勤講師。村で持続可能な住まいの方の研究を行つ。